



白い木橋が新地から築町に架けられた新大橋。右奥の高台は旧大徳寺境内、左奥は愛宕山（長崎外国語大所蔵）

中島川河口の新大橋

写真に見る

115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 9 □

出島東端から中島川河口が要求し、明治になって完
越しに新地方面を望む。右成した浪ノ平から出島まで
の高台は旧大徳寺境内、左の遊歩道の一部である。梅
は愛宕山である。内浦と呼 香崎は新地と梅香崎橋でつ
ばれた長崎湾奥はまだ埋め ながり、築町と出島にも出
立が進んでいない。 島橋が架かり、出島の陸
白い木橋は、明治2（1 地化）が始まった。
869）年に新地から築町 新大橋は中島川の交流工
に架けられた約90分の新大 事で明治30年に廃止される
橋。幕末に居留地の外国人 ので、この写真の撮影時期

外国人が要求した遊歩道

は明治20年代と思われる。 江戶時代に干しあわび、
和洋折衷の洋館は、明治 初年に中国商社の裕源号が
あった新地4番（旧長崎ワ シントンホテルの場所）に、
明治19（1886）年に開業 したからすみ販売の松本庫
治商店である。松本は長崎 電気軌道などの重役を歴任
し、長崎市参事会員や長崎 商工会議所常議員も務めた。
旧大徳寺境内の木間に 幹（左）や昇立長崎病院の
病棟（右）が見える。 左の石垣の木造家屋は、
旧俵物役所の水門遺構であ 番に移転し、明治22年に十
る。八銀行（現十八親和銀行本 店）がここに転入する。
橋の背後のしつこい屋根 は旧薩摩屋敷（奥）横の栗
岡倉庫である。紀州藩のご 用達で紀伊国屋を名乗った
栗岡家は、幕末に西浜町の 町年寄久松家の敷地を買い
取り、塩、切手、収入印紙 を専売した。佐伯（大分県）
出身で養子の三代目利吉は 呉服商や倉庫業で長崎を代
表する豪商となり、市会議 員や参事会員も務めた。
明治37年には出島前面が 埋め立てられ、新大橋際に
流れ出ている銅座川は新地 側に交流され、川口に出師
橋が登場する。

（長崎外国語大学長）

随時掲載します